

小説 私の東京教育大学

真木 和泉著

移転の強行に反対した学生

日本の多くの大学では昭和40年代後半、学園闘争が起こった。このうち東京教育大学は、大学自体が廃学になった唯一の大学である。学園闘争は多くの場合、学費値上げや学部・カリキュラム改革、寮問題がテーマだったが、東教大の場合は筑波研究学園都市への移転・再編という文部省と財界による国家プロジェクトが背景にあった。本書は東教大闘争にかかわり、人生に大きな影響を受けた著者の自伝的小説である。

入寮当時の人間群像、ロックアウト抗議闘争を回想した「初雪の夜」と「もう一度選ぶなら」、晩年の「教育大闘争を振り返るプロジェクト」のエピソード「残照」の3作品を収録している。これらの小説を通じて、筑波移転を強行する大学当局への自治と民主主義を求める学生たちの姿が浮き彫りにされている。

ちなみに評者の恩師は、東教大文学部の教官として反対論の急先鋒だった。雑談で当時の思い出を熱っぽく語っておられたことが印象に残っている。(裕)

(本の泉社、税込み1320円)

小説 私の東京教育大学

真木和泉


